



ギブスコアは常に、技術探求、ビジネス、文化を環境に留意しながら、それらをうまく伝統に根付かせてきました。聖地アランツァスに、一つのその良い例を見ることができます。そこではアイスコリ自然公園のすばらしい景色と霊性、現代クリエイターによる試みが一つになっています。

# ギブスコア

**観** 光ビーチとロヨラ、アランサスといった聖地。数々のモニュメントで知られる町と産業都市。緑豊かな自然の中に点在する農家と洗練された文化活動。ギブスコア県は、それぞれの地域が違った特徴をもつ多様な県です。最も面積が小さく、一番多くバスク語が話され、海と山があり、フランスとのムガ(国境)に接したこのバスクの土地は、谷ごとに新しい驚きを見せてくれます。

ビダソア、オイアルツン、ウルメア、オリア、ウロラ、デバ。これらは、アイスコリとアララールの山塊からカンタブリア海岸まで、ギブスコア地域をほぼ平行に流れる6本の川です。この六つの川は、それぞれが山で隔てられた谷を作っています。そのために各地域は、特有の特徴をもった小宇宙とでも言うべき個性を備えています。

一般的に海岸沿いの伝統的アランツァレ(漁師)町には、昔からその広くて美しいビーチを目当てに、観光客がやってきています。サラウツ、ドノステリア、オンダリビアは、ギブスコアの海に面したレジャー地のなかでも人気があるとことです。

バスク文化の本質を知りたいと願う人は、逆に内陸部に行くべきでしょう。その谷は、常に緑にあふれ、何世紀もの間ほとんど変わらない酪農業を生産単位とする、バセリア(農家)を基本にした活様式が行われています。それらの農家の中には、その土地で昔から変わらず伝えられてきた豊かな観光行事を、地元で楽しんでもらえるよう、民宿としての宿泊設備を備えているところもあります。ほとんどの地域は、山が多い地形のために何世紀もの間、周囲との行き来が少なく、ほぼ孤立した状態でした。ギブスコアでのローマ化は、イルン(サンタエレナ礼拝堂にあるローマ巨大墓地)、オンダリビア、オイアルツンという西端部だけに見られますが、それも表面的なものでした。

ケルト人の侵入もイスラム人の侵入もなかったギブスコアは、外との接触といえば、中世期の海岸と内陸部を通るサンティアゴの巡礼の道によるものだけで、しかもその聖ヤコブへの道に沿った地域のみ

限られていました。13世紀にカスティーリャに併合されると、歴代のカスティーリャ王は、交通路やナバラ王国との境を監視するためにギブスコアにさまざまな町を築きます。後に成長を続けることになるこれらの町には、この時代の大変貴重な芸術・建築の歴史的遺産が集中することになりました。

中世以降ギブスコア人は、農業、沿岸漁業(当時鯨漁も含む)、製鉄業に従事し、後に商業活動が加わります。

その後、19世紀の産業革命を機に、ビスカヤでは重工業分野、一方ギブスコアでは製紙業、工作機械といった軽工業分野が盛んになります。

産業関連会社は、地域内にほとんど一様に定着し、そのため人口も均一に広がりました。ドノステリア-サンセバステリアンとその周辺地域は、かなりの人口があるものの、それでもバスクの県都の中では一番人口が少ない都市です。

このように地域への分散が行われたことにより、程度の差はあれ、どの地域にもモニュメントのある中心部、産業区、自然空間、幅広いレジャースポットがあります。またこの地は、優れたシェフの地であることも忘れてはなりません。こういったすべてが、魅力に溢れ、経済の多様性がある今日のギブスコアの特徴になっています。

海岸周辺

ギブスコアの東側は、ビダソア-チングディ地域から始まります。フランスとの国境沿いに位置しているその町々は、さまざまに揺れた歴史をもち、今日でも、その時代の軍隊を模したパレード“アラルデ”



“アルギサイオラ(死者へ手向ける渦巻き型ろうそく)は、バスク伝統文化の一つで、今でもギブスコア県の田舎で受け継がれています。



ギブスコア内陸部の谷は、点在する農家と周辺の小さな村落の景色が特徴です。

が行われます。オンドリビアは、ピダソアの河口とフランス国境を見下ろす高地に要塞として建設されました。

オンドリビアは、その城壁の前で起こった数々の戦争にもかかわらず旧市街地は、よい状態で保存されています。今日ではパラドル( 国営観光ホテル )になっているカルロス 5 世城をはじめ独特な建物が軒を並べています。

砂浜のほかに、漁師区マリーナも見のがせません。花のあふれるバルコニーをもった色鮮やかな家が並び、その入り口はバーやテラスに続いています。

現在は商業都市であるイルンは、その戦略的条件を利用したローマ人によって築かれました。詳細は、サンタエレナ礼拝堂にある博物館で見ることができます。

イルンとドノスティア - サンセバスチャンの地域は、人口密度の高いところです。海沿いにある山ハイスキベルから、オイアルツンが麓となるアイアコ・アリア自然公園までは、回廊地帯になっています。

産業の町エレンテリアは、まともに状況の悪化の影響を経験しましたが、それにもかかわらず旧市街は、よく保存され見どころとなっています。

パサイドニバネは、ギブスコアで一番大きな港であるバサイアのなかでも、ちょっとおしゃれな地区です。そこには、湾の縁にある長い通りに沿って船乗りを思い浮かべるスタイルの家や邸宅、大きな屋敷が並んでいます。

ウルメア川の内陸部には、りんご酒で有名な町アスティガラガと、重い歴史をもつエルナニがあります。エルナニには、彫刻家エドゥアルド・チリーダの作品が展示されているチリーダレク野外美術館があります。この美術館には、12ヘクタールの庭があり、そこには 40 を超える大きな作品が並んでいます。また修復された 16 世紀の大きな農家の中には、小規模の作品が展示されています。

海岸沿いを進み、ドノスティア - サンセバスチャンを通り過ぎると、オリオに着きます。そこには砂浜と、城壁と見まがうような、ひしめき合うように家が並ぶ旧市街があります。オリオ - サラウツ間には、アゴレギの鍛冶場と水車で知られる大自然の中に位置する、パゴエタ公園があります。

サラウツのエレガントな砂浜は、ギブスコアでもっとも距離が長く、サーファーのメッカといわれています。またサラウツでは、ルセアの塔やナロス邸といった興味深い建築物も豊富に保存されています。

# お勧めルート

# 灯台めぐり

目の前に広がるギブスコアの海岸。ドノスティアサンセバスチャンから西へ向かってムトゥリクまで。東方面はオンドリピアまで。灯台と砂浜、町と村、海の香りに満ちた二つのルートを御紹介します。



ムトゥリクは、ギブスコア県西端の町で、サトゥララの浜と美しい旧市街が見どころです。

## ルート A

ドノスティア-サンセバスチャンから西へは、時間があれば、国道 N-634 号線に沿ってサンサルバドル教会があるウスルビル、ウナギの稚魚の生産地アギナガ、そしてオリオへ行くコースと、高速道路 A-8 でサラウツに直接出て再び N-634 号線の海岸道路に出る二つのコースがあります。

サラウツは、ドノスティア-サンセバスチャンに次ぐ第二の観光地です。長いビーチ、賑やかな通り、中世の建築物ルセア塔、サンタマリア・デ・レアル教会。また写真愛好家には見逃せない写真博物館があります。

ゲタリアのサンアントン山は、そのかたちから“ゲタリアのねずみ”の名で知られています。この町は、航海者ファン・セバスティアン・エルカノや、婦人服デザイナーのクリストバル・バレンシアガ

の出身地として知られています。また二つの塔をもつ、勾配のある地形のために、平面形式が不規則になったゴシック建築のサンサルバドル教会は見逃せません。

次の町はスマイア。ウロラ川の河口にあります。二つのビーチと、ファン・デ・アンチエタの祭壇が美しいサンペドロ教会、スロアガとフリオ・ベオビデを記念する博物館の二つの文化的名所があります。またこの付近は、地理的に重要な特徴があるところです。

スマイアとデバの間にあるアルト・デ・イツィアール。イツィアールの聖母のほこりに立ち寄ることもできます。

デバには、心地よい砂浜とサンタマリア・ラ・レアルにちなんで建てられたもう一つの教会があります。

## ルート B

ドノスティア市内から国道 N-1 号線を東へ行くと、ギブスコア最大の港、バサイア湾に着きます。



レソで国道を外れると、絵のような風景が広がるバサイドニバネに着きます。湾岸に沿ってある唯一の通りは、サンティアゴ広場まで数々の美しい建築物の前を通過しています。特に有名なのはピクトル・ユエゴが住んでいたといわれる家、そしてサンファン・パウティスタ教会です。

再びレソに戻り、ハイスキベルの山へ登り、海の景色を楽しみましょう。オンドリピアへと下る途中には、美しい景色の中にグアダルベ聖堂と砦があります。

オンドリピアの旧市街は国定遺産とされ、現在は(エルエンペラドル国営観光ホテル)であるカルロス 5 世城をはじめとする紋章がついた貴重な建物が並んでいます。

そこから下ると、エスロロン散歩道につながるカラフルな漁師地区、ラマリナがあります。

旧要塞都市のイルンを通ってドノスティア-サンセバスチャンまで

戻りましょう。

イルンのサンタエレナ礼拝堂には、ローマ時代の巨大墓地为保存されています。また、この地の守護聖人ヌエストラ・セニョーラ・デ・フンカル教会では、6 世紀に作られた聖女の像の大きさが目を引きま



賑やかな サラウツの海岸通り。ナロス宮殿、有名シェフ、アルギニャーノ経営のレストランや、カフェテラス、前衛芸術の彫刻など楽しみがあふれています。



美味 ゲタリアとオリオの街中で焼かれる新鮮な魚。一緒に飲む現地のチャコリ(白ワイン)は絶品です。



急峻 引き潮時には、潮汐平底が見えるスマイアとデバの間に続く断崖。上の道路からは隠れて見えません。目の当たりにできる自然の驚異です。



絵画的 バサイドニバネのカラフルな漁師の家。遠くからその景色を眺めるには、バサイアサンペドロへの渡し舟が利用できます。

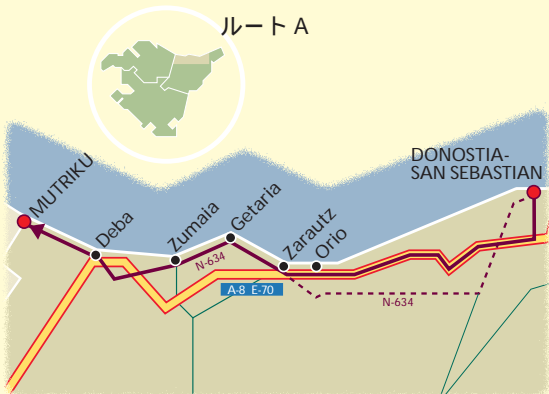


不思議 海面から突き出る島サンアントンは、その形からゲタリアのねずみと呼ばれています。豊富な種類の植物、きれいな灯台があります。



中間 イルンを流れるピダソア川に真中に浮かぶファイサネス島は、二カ国の中間にある無人島です。ここで、ピレネー条約が結ばれました。

ルート A



ルート B





サラウツとゲタリアは、ギブスコアで最もよく知られている砂浜です。(遠くに、ゲタリアのネズミ)

ドノスティア・サンセバスチャンに次いで多くの観光客でにぎわうこの町は、夏にたくさん文化活動や祭りが催されます。

“海岸道路”と呼ばれる景色のすばらしいN-634号線は、ここサラウツから始まって、スマイアまで続きます。この道路を進むと、途中でゲタリアという町が見えます。ここの市街地は、一部海に入りこんだような帯状になっており、“ゲタリアのねずみ”の名で知られるサンアントン山まで続いています。この小さな町は、航海者フアンセバスチャン・エルカノや、婦人服デザイナーのクリストバル・パレンシアガといった有名人物を輩出したところです。また特産のチャコリ(白ワイン)と焼き魚を味わう楽しみは逃せません。さらに見どころとして、エウスカディの重要なゴシック様式建築のひとつサンサルバドル教会があります。

スマイアにはイツルンと、サンティアゴという二つの砂浜と、中世の足跡が残る旧市街があります。高い位置にある通りを歩いた後は、ウロラ川沿いを通って海へ出る海岸沿いの長い散歩を楽しみましょう。

ウロラ川は、ギブスコアとアラバの県境に生まれ、スマイアに至る前に、セストア、アスペイティア、アスコイティアという観光地を通ります。

薬用鉱泉水の存在が知られるずっと前からセストアには、ゴシック様式のリリ邸などに、身分の高い家

族が住んでいました。そのリリ邸は、役場とともに、歴史芸術記念建築物にされています。しかしながらセストアを有名にしたのは、何と云っても温泉治療と保養で知られたその湯治場でした。

バスク鉄道博物館のあるアスペイティアも、サンタマリア・ラ・レアル小教区のあるアスコイティアも十分な魅力にあふれています。

またこの二つの町から同距離には、生家の隣に建てられたイエズス会創立者サンイグナシオ・デ・ロヨラの聖地ロヨラがあります。この建築は17世紀末に始まりましたが、スペインからのイエズス会士追放のため、完成は19世紀末まで待たなければなりませんでした。広大な庭園に囲まれ広場が前に広がるロヨラ聖堂は、ベルニーニの弟子の一人によって設計されました。バロック式の正面と、65メートルもあるドーム型の屋根がひじょうに印象的です。

そこから海岸への帰り道には、ポプラ並木と多くの美しい別荘がある昔からの避暑地デバを通りましょう。この町は、イツィアルの祠(ほこら)がある内陸高地に位置するイツィアルの人々によって築られました。デバからは、非常に田園風の美しいラストゥル谷へアクセスできます。

ギブスコア最後の海沿いの町は、ムトゥリク。元海軍大将チュルカの生家ゴルドゥサクアがあります。

# お勧めルート

# 三つの聖堂

ローマ建築のラアンティグア・デ・スマラガ、バロック建築のロヨラ、前衛芸術建築のアランサス。ウロラ川とデバ川が流れる谷間を行くこのルートは、芸術と霊性にあふれています。

式的音楽家アンチエタの生家は見のがせません。鉄道博物館は、昔の駅に古い機関車や客車が展示されています。ここでのもう一つの見どころは、イングルギロ・エチェア（自然環境センター）です。



アスペイティアとアスコイティアの中間点では、イニゴ・デ・ロヨラが生まれた家であり、ドーム屋根が目玉を引く聖地ロヨラの荘厳な景色が広がります。

“ピリア・デ・ロス・カバリリートス”と呼ばれる

アスコイティアでは、サンタマリア・ラ・レアル教会を訪れ、素晴らしい祭壇背後飾壁の前で足を止めましょう。この教会では、名高いカヴァイエ・コル社最後の製品となったオルガンが奏でられています。

つぎの停車地、スマラガには、山に囲まれたローマ様式の“ラアンティグ

ドノスティアから高速道路A-8で、美しいリリ宮殿と温泉が名所のセストアまで行きます。そこからGI-631号線を通って、ウロラ川沿いを進みましょう。

間もなくイサライツ山塊の麓、アスペイティアに着きます。巨大な柱で支えられるサンセバスティアン・デ・ソレアスの教区教会、ムデハル様

ア”で知られるサンタマリア礼拝堂があります。フィリピンの征服者ミゲル・ロベス・デ・レガスピが生まれた塔館はアルティス地区にあり、旧市街の柱廊のある広場には、彼の銅像が立っています。

スマラガに隣接するウレチュでは、サンマルティン・デ・トゥールズの教区教会を訪れ、“ゲルニカコアルボラ（ゲルニカの木）”を作曲した詩人イバラギレの銅像にあいさつしましょう。

レガスピの中心地を過ぎると、ミランダオラ鍛冶場に着きます。ここには、サンタクルスの奇跡を思い浮かばせる礼拝堂もあります。

これらのウダナ高地を見た後は、ギブスコアの至宝の一つオニャーティを訪れましょう。



エウスカディの宗教建築ではないものの中で、最も素晴らしいと言われるのは、ルネッサンス様式のサンクティスピリタス大学です。川の上にある内庭回廊で有名なサンミゲル教区教会、塔館や大邸宅が軒を運べるオニャーティは、貴重な名所が並ぶ類い稀な町です。

オニャーティからはアランサスに向かってGI-3591号線を上ります。

この道のりからは、素晴らしい景色を眺めることができます。

アイスコリ山脈の下、切り立った絶壁の一つに、5世紀ある羊飼いがサンザシの木の上に聖母マリアを見たことによって、まつられた聖地アランサスがあります。50年代に造られたアランサスの新しい聖堂は、優れた前衛芸術が結集してつくられたものです。

オニャーティに戻った後は、デバ谷（GI-632、GI-627号線）へ向かいます。

マロト将軍とエスパルテロ将軍が“ベルガラ”の擁護”として知られる第一次カルリスタ戦争の終止符を打ったベルガラを訪れます。サンマルティン広場には、バロック建築の市役所、浅浮き彫りが美しいハウレギの家、現在公開大学

となっているレアル・セミニリオ・パトリオティコ・バスコンガドなど、象徴的な建物が並んでいます。

またサンベドロ・デ・アリソナ教会や珍しい穀物倉アガレも見どころです。

ソラルセを通り過ぎると、エルゴイバルのサンバルトロメ教区教会の塔が見えます。さらに、工作機械博物館にも足を運んでみましょう。

ここからA-8号線を通って、ドノスティア-サンセバスチャンへ戻りましょう。



リラックス ベルエボック時代に流行になった鉱泉水で知られるセストアの温泉。今日では、古い豪華な建築に新しい設備が加えられています。



鉄道 ウロラの旧アスペイティア駅にある鉄道博物館では、実際に蒸気機関車に乗ることができます。



唯一 ラアンティグアの屋根を支える木製の枠組。幼子イエスを抱く聖母の姿は“もっとも大きいバスク礼拝堂”の、もう一つの魅力です。



白熱 レガスピのミランダオラの鍛冶場で造られる鉄。一つの水車で動く古い設備を使って、昔の製鉄法を実際に見せてくれます。



縮小 アランサスのよく知られたマリア像の大きさは、わずか36センチ。しかしながらルシオ・ムニョス作の木製の祭壇に囲まれて際立って見えます。



科学的 レアルセミニリオ・デ・ベルガラは、18世紀科学界での基準でした。エルウヤール兄弟は、そこでタンクステンを発見しました。





遠くから見える姿から“ゲタリアのねずみ”で知られるサンアントン山上にある灯台

このサトゥラランの浜は、他に比べて人が少ないものの魅力的な浜辺です。

内陸の谷をとおって

ギブスコア最南端に、塩の生産で有名なレインツ・ガツァガがあります。カスティーリア王国への道は、この城壁の町を通っていました。今も町へのいくつかの門が残されているほか、興味深い建築物もあります。

中でも魅力的な町は、19世紀半ばまで独立領地だったオニャーティです。ここにはゴシック様式のサンミゲル教会、非常に美しいルネサンス建築のサンクティスピリトゥス大学があります。また近くには巡礼地で、前衛芸術の作品が集められた聖地アランサスがあります。

ベルガラは、エスパルテロとマロトが、第一次カルリスタ戦争に終止を打ったことで知られる歴史的に重要な町です。旧市街には旧家、教会、旧リアルセミナリオ修道学校の建物などが並んでいます。

ゴイエリへ向かって

オリオ川上流に位置するゴイエリ地方への道は、一時期ギブスコアの首都であったトローサを通ります。

トローサは、製紙工業のほかに、ベレー帽の生産、菓子作り、合唱コンクール、そして長年続けられよく知られているカーニバルなどで有名です。また甘い物好きには、菓子博物館は見のがせません。

ゴイエリの中心地は、オルディスィアで、防衛目的でつくられた町です。また毎週、大きな規模の市場が開かれています。オルディスィアと隣接しているベアサインからは、修道院があるラスカオ、何世紀もの間カスティーリャとフランスの間の通過点だったセグラへのアクセスが可能です。セグラには、城壁が保存され、大一族、旧家の豪邸が数々見られます。

アラバとナバラの県境であるアイスコリ山のふもとには、小さな地区と点在する農家に囲まれたセガマの町があります。その郊外にあるオツァウルテは、昔ギブスコア - アラバ間の往来に利用されていたサンアドリアンのトンネル周辺の村へ向かう出発点です。

ウロラ川上流のスマラガとウレチュは、一つの地域を形成している産業地帯です。スマラガでは、屋根を支えている枠組工法が珍しいゴシック建築の教会サンタマリア・デ・アンティグア礼拝堂が有名です。また近くの町レガスビには、昔鍛冶が盛んだったことを記念して、ミランダオラの鍛冶場が残されています。

## お勧めルート

# ギブスコア内陸部

この観光ルートは、美しいアララール山脈とチンドキ山のシルエットを背景にして、トローサルデアとゴイエリ(バスク語で上流の地の意味)エウスカディの田舎の真髄を色濃く残している町村をめぐる。

マリオネットフェスティバルといった国際的文化的行事にも使用され、注目を集めるところです。

アレギアで、スピサラ(古い橋)と、サンファン・パウティスタ教会のキリスト像を見てからGI-2133号線を通り、チンドキ山



ドノスティアから国道N-1号線を出発して、まずトローサを訪れます。19世紀の一時ギブスコア県都だったこの町には、大きな面積をもつ旧市街に、数々の公共建築物や邸宅が並んでいます。サンタアナ教区教会や、ティングラド(市場)の建物は、見所であるだけでなく、この町が開催する合唱コンクールや、

の麓に広がる小さな田舎町に行きましょう。

アムスケタには、美しい庶民的な建築がまとまった区域があり、サンマルティン教会やサンマルティンの草地があります。さらに上部のアバルツィスケタには、ロマネスク様式の柱廊をもつサンファン・パウティスタ教会があります。

上り坂になっている道を進んで行くと、バルツィスケタに属するラライツ地区に着きます。羊飼いと登山家に崇拝されているヌエストラセニョーラ・デ・ロス・レメディオス礼拝堂を前にして、美しい自然の真ん中で立ち止まりましょう。

ラライツから先は、道が下り始めます。特産のモンデフス(羊のモルシーリアソーセージ)が味わえるサルディビアを通過し、田舎の雰囲気に別れを告げて産業地帯である二つの町オルディシアとベアサインへ向かいます。

オルディシアには、旧家(メルカド広場の角に位置する風変わりなバルコニーが特徴のサバラやイバルビア、バレンエチェア、その他)アス

その造りから容易に想像できるでしょう。旧家と城壁が残る市街部とは対照に、その周囲には礼拝堂が数多く見られます。

セグラでは、現在市庁舎になっているラルディサバル館も、ゴシック建築でありルイス・カルモナ作のチュリグラ様式42の彫刻で飾られる祭壇をもつヌエストラセニョーラ・デ・ラ・アスンシオン教会も見過ごすことはできません。

セグラからはセラインへ行ってみましょう。家紋の付いた家が並び、緑に囲まれたすばらしい景色が広がる小さな村です。民族博物館もあります。

セグラから戻るには、GI-3571号線を農家に囲まれた町ムティオラまで行って、GI-3572号線に



ンシオン教会、オイングレン公園などがあります。

ベアサインでは、聖堂やサンマルティン・デ・ロイナスを祀った礼拝堂が見所です。

N-1号線からGI-2637線に入り、セグラへ向かいます。中世の昔、サンティアゴ巡礼の道の防衛用に造られた当時のこの町の重要さが、

入り、オルマイステギを通ります。ここでは、エッフェルの弟子の一人が手がけた鉄道橋、スマラカレギ博物館、前ロマネスク様式の幾何学模様が特徴のサンアンドレス教会などが見どころです。

この後は、ベアサインでN-1号線に入って、ドノスティア-サンセバスチャンへ戻ります。



お菓子 菓子製造者のゴロチャテギが収集した道具が展示されているトローサのお菓子博物館。



重要 チンドキ山(1346 m)は、アララール自然公園を象徴する頂です。慣れた登山者ならラライツから約二時間でたどり着くことができます。



おいしい 毎週水曜日はオルディシア、土曜日はトローサの市場で、この地域の新鮮な農産物が手に入ります。



中世 サンアドリアンのトンネルへの道を守るために、13世紀に設立された町セグラの歴史区。大きな屋敷や入り口の扉は、その時代を思い浮かべさせます。



田舎 小さな村は、バスクの伝統を知るのにとっておきの場所です。民族博物館があるセラインは、その手助けになってくれるでしょう。



歴史的 オルマイステギにあるカルリスタのスマラカレギ将軍の生家である博物館では、彼について、またその時代について学ぶことができます。

